

以下 汚れあり

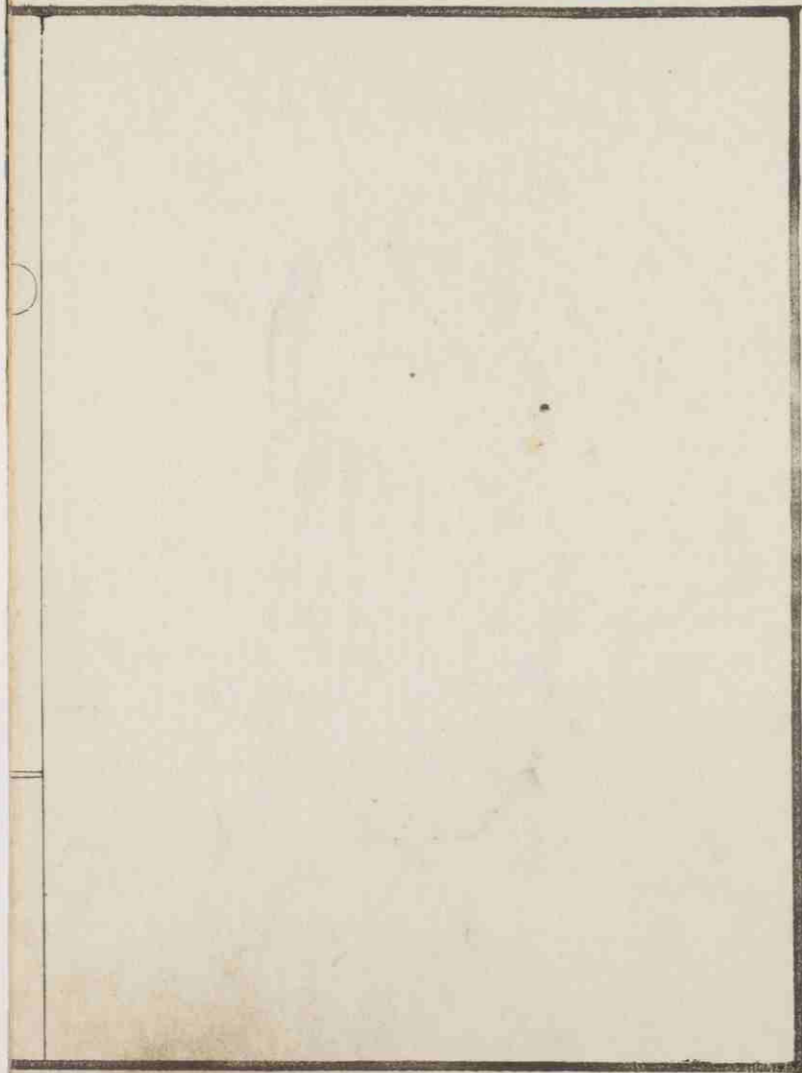
破損あり

1/21





法華經
東盛教育
圖書館藏本



出羽陸奥高志格多く佐渡格福者も多し
久保の如く久保くむき渡りも多し格の中樞うつし其村の自正院とて
とて格の中樞うつし其村の自正院とて
とて格の中樞うつし其村の自正院とて
とて格の中樞うつし其村の自正院とて
とて格の中樞うつし其村の自正院とて

その禪舎あはれにふちりてぬまひのう建むを何れ人の世小屋も毛もけさる
格の中樞うつし其村の自正院とて
とて格の中樞うつし其村の自正院とて
とて格の中樞うつし其村の自正院とて
とて格の中樞うつし其村の自正院とて
とて格の中樞うつし其村の自正院とて

陸奥

陸奥

相原

云々... 五十目山内... 榎妻... 今も松前の西磯... 十能七... 中津... 野山もみろ里... 久保田の琴原...

雪の寒さも... 鉢村... 大馬澤... 牧馬... 大津馬社... 神跡... 常楽院...

相原

相原

相原

榎屋

十日乙卯の晦のあがりおきたる家々二三日とていふに、此所、移座する山神祭の
こと、家々に小餅高くして細き柗を鐘木のとおし作り、七人しては、
柗のそれ合書して、遠架すものもて、祈をうらむ事や、
水鶴の鳴やうに、さうりて、歌れく、あはれい、
飽くまでも、わらわをうらみ、鶏あさる、夏をうらして、
久保田土崎のみを、わらわを、うらむ、
雷ゆく、いづこ、山越の道、きいて、
と、あはれ、わらわを、うらむ、

十五日、富田村来り、村名、松のちうとて、濱栗と焼く、伊勢國桑名郡富田の
郷に、尾張三河より、外おむる、名、さ、姓氏、おもあり、
草名盛氏の事、いづか、永禄のころ、さ、領主、
さ、草名義廣、いづか、政宗を、追ひ掃く、
と、あはれ、わらわを、うらむ、

富田平田より、政宗に、屬して、
さ、あひ、ひ、た、一、味、
富田村も、その氏、の、末、あり、
の、御、神、を、遷り、
勧請して、開祖として、富田山天宮寺として、
この、原田儀右衛門よ、
あ、
民、
里、
此、家、
一、行、

相慶

めはくくその名あつすのちめきの色あふ字にたをる紙
十八日香くゆりて幸太吉山湯腹やま華具理やま黒土かまかどまねの怪
見わたるあまのまのこもせられあまがけりけりけりけりけり

まり埋む梅を礼の鳴やれややままへ白くくくくくくく
世屋戸のゆりて光神とふそまむく雷公まけくその雷神聖父や地おれ
水田守もまをまじやれと云世あうふいとく多まをまけりけりけり
十九日ひつりよりあまをまけりけりけりけりけりけりけり
いとゆりまゆりまゆり世山の花も足くまへんを信あうくけりけり

ちくくねぬ海さくまふかす沖の山路を雪まけりけりけり
中津俣川の獨木橋いとあわくゆりて深雪まけりけりけりけり
ゆりけりけりある是とて聽前の足迹に世あままけりけりけり
年依婢のむきしむあまむきび脚の爪五ヶ子の爪中爪のちりけりけり

いとくく様さくさくゆりあまゆりて中津俣の経緯とて河の邊をつら細徑
うりまも南馬場目川北小浅見内川流く中津又まけりけりけり
嶽より二瀬小尾一瀬とある山田うらこの林麓小麓合五十四里あり馬場目
河とをり流れて一日市まけりけりけり琴の湖も落ぬ中津又ま美濃國中津川
洲俣とあまゆりいとまけり岸も厚凍とまけり流る雪ふれもけりけり
上津瀬のその下は清のまけり中津の流るありありありあり

世番より中津又まけり中津又郷の技色多しとまけり八田村あり世八田と
まけり多しとまけり比八田仁八田八田大藏とまけり雪う山根小尾南子
のあふ大藤かりなる森の中まけり任吉お神を齋ふも半夏生ま田祭り
まけりまけり川向まけり若宮八幡の申神も御湯をその日まけりけり
し市村の龜藏院とま山伏の色なり長首あり世名も山本郡岩川在を
まけりあまゆりまけりまけりまけりまけりまけりまけりまけり

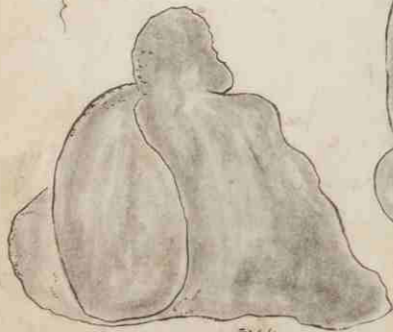
佳屋

（中津の山）



柳屋

秋田郡大河驛東大河天神社の傍
 五十目御所の本光山宗延寺の枝まき
 地蔵あり其巻小野小町八匠像の
 老為形なりを恩荷の浦人五十目
 市小巻は是なり世浦人の上祖と
 雄勝郡小野村あり巻小野の姫
 りを巻のみを巻と家なりと之
 持つてさるありしが家なりとあくと
 かんは是と市は巻ありあむを巻
 と世巻の法師も市巻と天明三年の巻
 買ひ得ると小野老と故知と巻と小野庵とありと
 くと巻の巻ひとありとありとあり

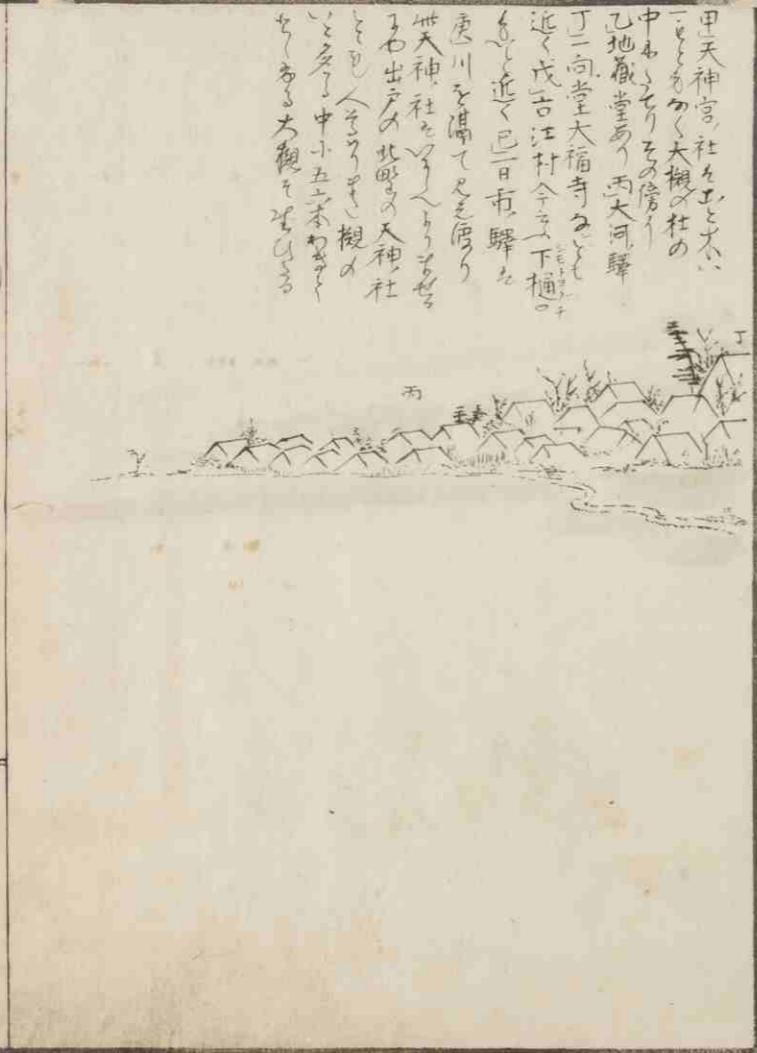


後背形



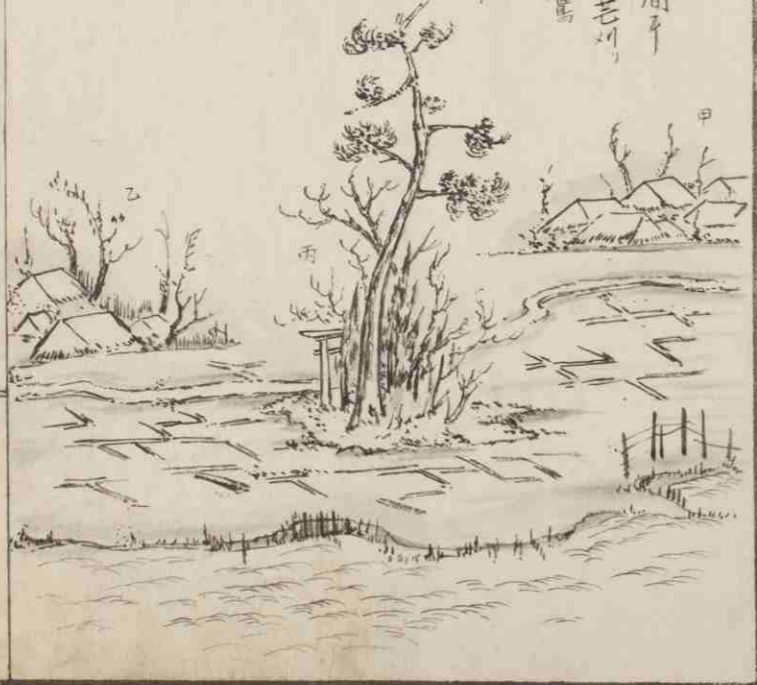
高二寸四分

甲 天神宮社をいふは、
 乙 地蔵堂あり、丙 大河驛
 丁 二向堂大福寺あり、
 戊 古江村今より下瀬の
 乙 近き、丙 日市驛を
 乙 唐川を隔てては、
 甲 天神社をいふは、
 乙 出戸の北の、
 丙 大観をいふは、



昨是美由丸花
 之今以粉也了
 明輝分有周之
 活也
 守也古活也

妹川^甲濱村と^乙羽立村との間
 諏訪社あり^丙中射山の麓に芒川
 徳屋造の山とあり^丁舞鷹
 鎌波夜夫佐のゆきとあり
 木鐘を作て手酬^戊あり
 夜叉節の諏方社
 あら^己あり
 い^庚あり
 な^辛あり
 中神社あり



あはれ

秋田郡北河尻村伊藤市共衛
 家藏
 源九郎義経書あり
 亀井六郎重清の書あり
 鏡あり圖のあり

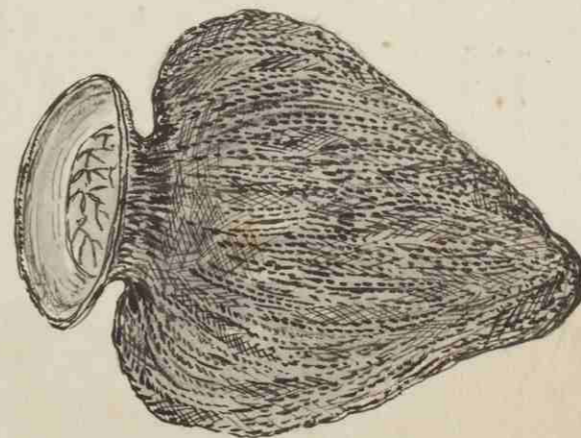
三代實録貞觀六年條子
 以出羽國觀音寺預之定額
 とありその古寺跡妹河村の舊方
 濱妹河村より成亥ありし
 妹河羽立村と云く龍湖迄あり
 其觀音寺の跡は貞和三年の
 志り石四碑あり世々ありし
 後貞和三年志り興あり
 種子の多る名を立しと云く
 その寺乱れ世々ありしと云く
 跡の堂を建て觀音堂と云く
 その基より元道法師といひる僧
 ありて田をんぞと云く一日一夜
 溝堰極り通より元道堰と云く
 其名今残りぬ此觀音寺舊跡と
 飯塚村ありしと云く論議あり
 その村の道も極りしと云く
 妹河の古といと進くより古道
 なきくらあう妹河の古とい



田の中小在りてつちあらく
 人より多しと云く世々ありし
 ともありしと云く妹河村
 と云く

甲 妹河村濱妹河村
 乙 飯塚村
 丙 觀音寺舊地
 丁 諏方社
 戊 隣村飯塚濱村
 己 聖飯束村
 庚 川村の性遠の
 といふと云く

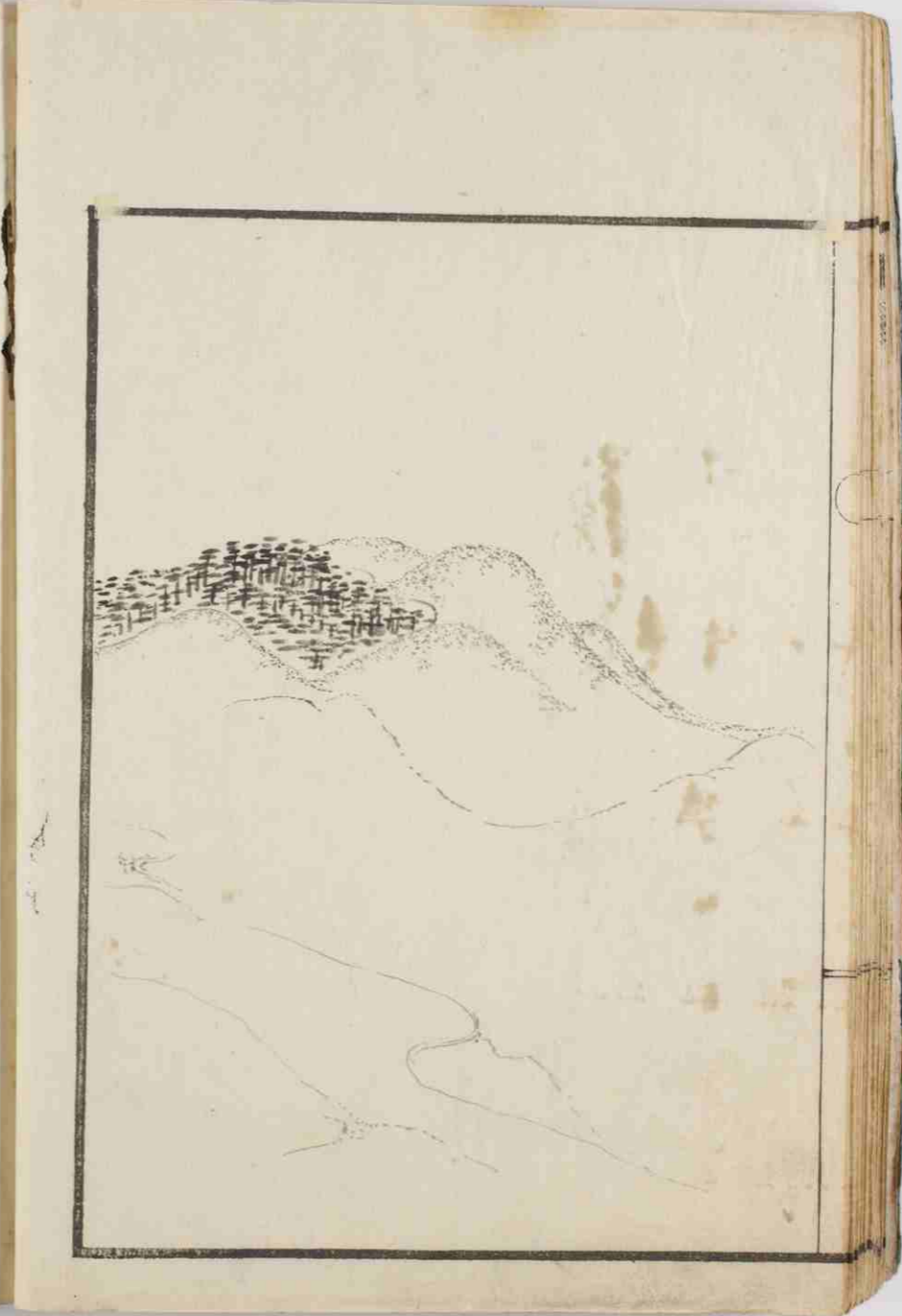


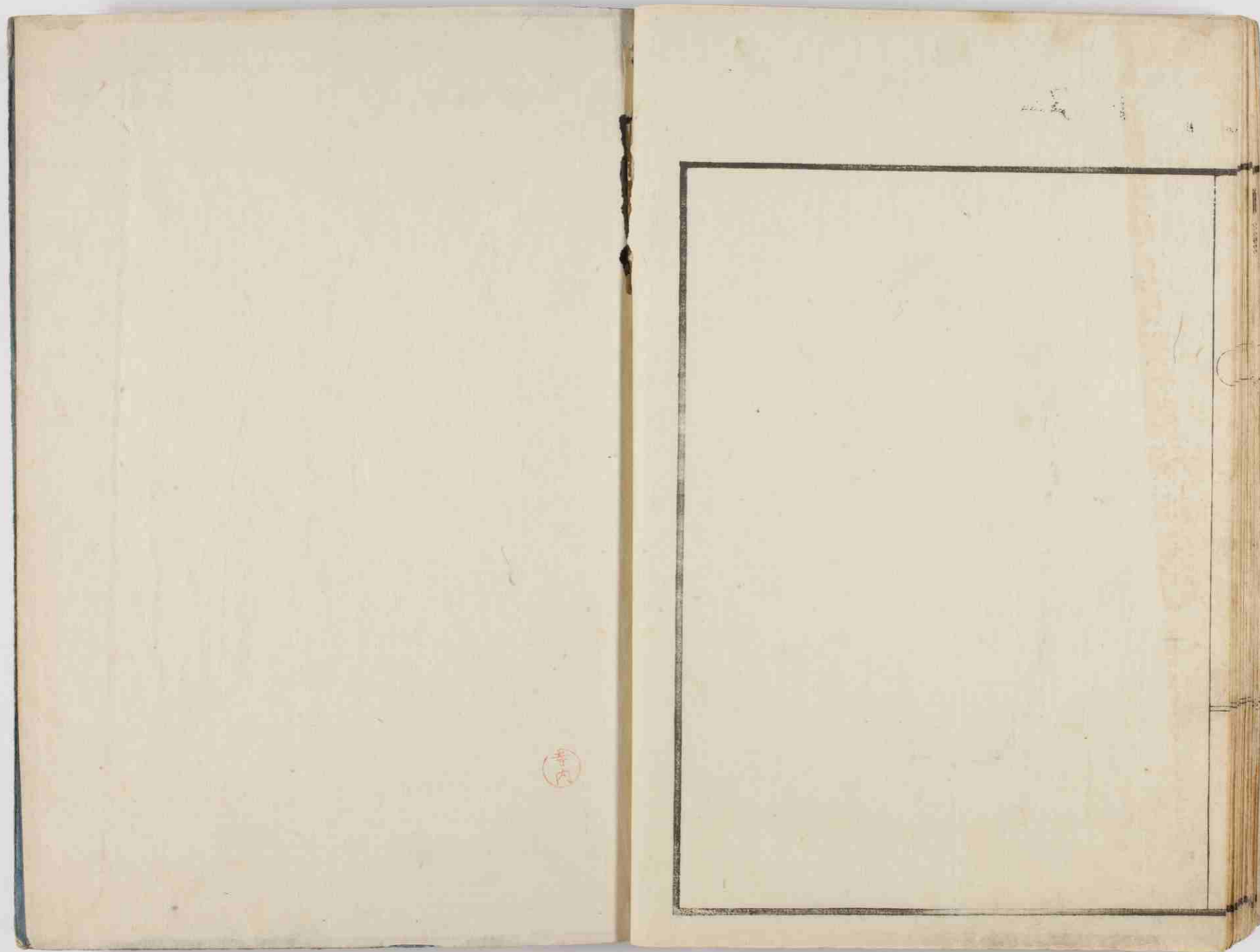






中茂を秋田郡小阿仁庄沖田面の
 茂村にて上南澤と山里を以て
 上中下の母澤と申はるなり
 水上の澤より山神社
 馬頭觀世音 十五の
 堂あり 家居 鹽沢山の麓に
 山あり 心よりわびし
 薪を炭に焼くを
 業とす





破損あり

21/21

